

廣福寺だより

1号

宗祖親鸞聖人七百回御遠忌法要

並びに当寺開創四百周年記念法要

昭和58年6月4日・5日勤修に決まる

昭和五十一年以来、御遠忌勤修をめざして堂宇の整備に当たってまいりましたが、門信徒各位の御懇念と御協力によりまして本堂向拝、控えの間、渡り廊下、お手洗と年々工事が進み、昨年は書院の新築工事も竣工をみる事ができました。昭和五十四年の総代会議におきまして「住職健在のうちに御遠忌を勤めたい」との発議がなされ、着々と準備が進められ、このほど明年六月四日、五日（土、日）の両日にわたり御遠忌を勤めることが正式に決まりました。昭和五十八年（一九八三）は奇しくも当寺がこの麓村浦之原に建立された天正十二年（一五八四）から数えまして四百周年に相当いたしますことは、まことに感慨深いものがあります。遠く宗祖の御遺徳をしのび、また当寺開創の昔に想いをはせ、お念仏に生かされる真宗門徒の原点にたちかえり聞法に精進していく御縁を頂くよろこびを皆様とともにわかち合いたいものです。

御門主様の御下向を仰ぐ

御遠忌には京都の仏光寺本山から御門主様の御下向を仰ぎ、法要の御親修をいただきます。現御門主様は、本山仏光寺第二十九世、真照上人、渋谷有教院下でいらっしゃいます。ほかに随行长、随行布教使、随行式務（二名）を御一行としてお迎えいたします。新装成った書院に御一行をお迎えますことは御同

慶にたえません。また仏光寺派新潟教区の御法中のほか親戚寺院の御出仕をお願いすることになっております。

親鸞聖人の御遠忌とは

御遠忌とは浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人の御法事のことです。聖人は弘長二年（一二六二）十一月二十八日、九十歳で御往生になりました。この年から数えて七百年目が昭和三十六年で、真宗各派の御本山で御遠忌が盛大に勤まりました。

法事は一週忌から三回忌、七回忌、十三回忌、十七回忌……と勤め、三十七回忌が過ぎると五十回忌、百回忌と五十年ごとに勤めるならわしになっております。宗祖の七百回御遠忌は御本山では御正当（ちようど七百年目）に勤まりますが、末寺では、その後二十五年の間に勤めることになっています。七百回忌より五十年前の六百五十回御遠忌は、明治四十四年御本山で勤まりましたが、当寺では御正当の五年前の明治三十九年の六月、七日間にわたって勤まりました。昭和十五年の火災後、二十八年に本堂再建、その後堂宇やお莊嚴の整備が続き、御正当の年から二十二年遅れましたが、ここに機縁まさに熟し明年初御遠忌勤修の運びとなりましたことは仏祖の御加護はもとよりのこと、ひとえに門信徒各位の御懇念の賜物とひたすら喜んでおります。

親鸞聖人と越後



承元元年(一二〇七)、念仏停止の法難に親鸞聖人は越後の国府(上越市)に御流罪になりました。時に三十五歳、五年後赦免となりますが、なお二年この越後の地にとどまれ念仏救済の道を化導されました。この間ひたすら自身の内心をみつめる生活の中から、愚禿親鸞と名乗られ、きびしい自然の中で生きる庶民との対話を続けられたのです。その足跡は定かではありませんが、南無阿弥陀仏の念仏は民衆の魂の救いとして今日に受け継がれてきました。「本願力にあひぬれば／むなしくすぐるひとぞなき／功德の宝海みちみちて／煩惱の濁水へだてなし」と御和讃に見えておりますように、聖人の著作の中に海の表現が多いことは注目すべきことです。それは御流罪の生活を送られた越後の国の風土

が背景となつているといわれています。

越後七不思議は有名ですが、当地でも親鸞聖人ゆかりの旧跡は多く往時の御化導の御苦労がしのばれる次第です。弥彦の聖人清水、(林部生三氏宅)や聖人手植えの椿(林部清蔵氏宅)、また同家に形見として与えられた真影(浄専寺蔵)などが知られています。(写真は親鸞聖人鏡の御影の一部)

聖人御使用の古鍋

聖人清水で知られる林部四郎左衛門方には聖人が越後での行化の途次、七週間御滞在といわれ、聖人の遺物として御染筆の六字名号らしく御使用の古鍋、御枕などが秘蔵されていましたが、いつのころからかお名号と古鍋が籠の分家林部名兵衛方にわたり、後年その保存に粗相があつてはと古鍋が当寺に納められ、寺宝として今に伝えております。口径一



八・五寸、高さ八・五寸の小さなもので数カ所に修繕がのこされています。

林部名兵衛家にはお名号が仏壇に安置されお名号の「名」の字をとって名兵衛と名乗ったとも伝えられ、御枕はその後横田村の某家へ伝えられたといえます。当寺に伝える古鍋については、聖人行化の際には西仏、性信らの従僧も同行し、時には分宿もされたと思像され、従僧は常に鍋を携行し信徒の喜捨にまかせて米や野菜を炊き聖人のお食事へ供されたものと思われまふ。いづれにしても刃土における行化の御苦労がしのばれるよすがともなっています。(写真は聖人御使用の古鍋)

広福寺聞法会の歩み

昭和五十年五月結成、六月から第一回の例会を開き今日に至っています。一月を除く毎月二十日、小針の瑞林寺、広沢憲隆師を講師にお迎えし午後八時からお正信偈のおつとめのおと正信偈の講話があり、なごやかな座談のひとときを過ごして散会となっております。この六月には八十回目の例会を迎えます。一応五十歳までの青壮年の方を対象としていますが、どなたでも気軽に参加されますようお願いしています。友との出会い、師との出会い、仏との出会い、本当の自分との出会いをめざしています。会費毎月五百円、会長さんは当寺門前の鈴木七次郎氏です。

御遠忌に御協力を

明年六月と御遠忌を一年前に控え、諸般の準備が進められています。昨年十二月、御遠忌の会奉行（法要の執行委員）として、広海寺、聖徳寺、本光寺、大蓮寺、照瑞寺の五カ寺御住職にお願いすることが決まり、本年二月の会議で法要の日程についてのあらましを別表のとおり決めて頂き、このほど御門主様の御意向もお伺いいたしました。御遠忌の大行事の運営に当たりましては、門徒側の態勢として御遠忌実行委員会を組織し、多くの方々の御協力をお願いしなければなりません。近く会議にはかり委員を委嘱することになります。その節は何卒よろしく御協力下さるよう伏してお願い申し上げます。なお法要期

間中に帰敬式と庭儀式があります。

帰敬式（おかみそり）は真宗門徒として身も心も仏・法・僧の三宝に帰敬の誠をあらわす式です。受式すると御門主様から法名が授けられ仏弟子に加えて頂いたことをあらわします。追って希望の方のお申し込みをお受けいたします。冥加金は六千円です。

庭儀式（おねり）は重要法要の入堂の時に行われる儀式です。庭儀のお宿（当世世話方山岸義正氏宅）から出発し村道を練り歩いて本堂正面から入堂します。稚児として参加希望の方のお申し込みをお受けいたします。追って道順や衣裳の費用について決まり次第次号にお知らせいたします。五十年に一度しかめぐってこない御遠忌です。多くの方々がこの勝縁にあわれることを念じております。

御遠忌法要の日程

<6月4日(土)>

午前8:00 晨朝（おあさじ）法話
8:30 御門主様御着
10:00 日中（おにちゅう）
11:00 御親言（おことば）
11:15 複演
12:00 おとき
午後1:00 あいさつ
1:30 表彰式
2:00 大逮夜（おたいや）
3:00 聞法の集い
感話発表
3:30 法話
7:30 御通夜（おつや）
御伝文・法話

<6月5日(日)>

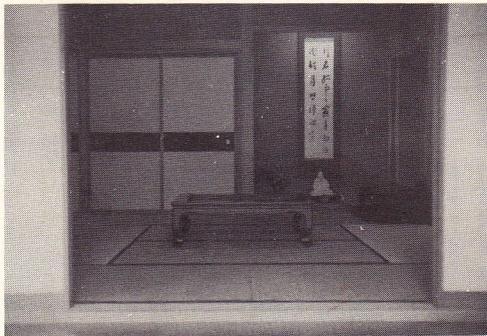
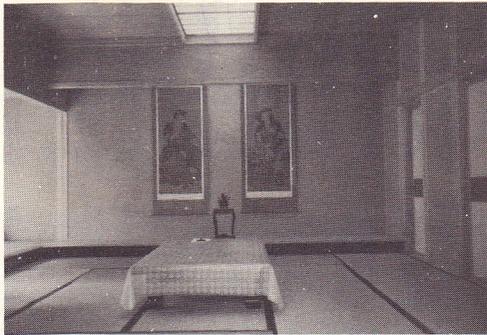
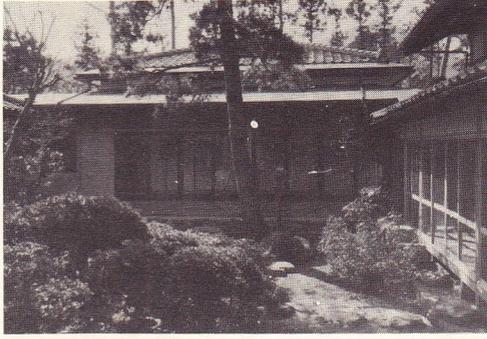
午前8:00 晨朝（おあさじ）
8:40 帰敬式（おかみそり）
10:00 庭儀式（おねり）
11:00 おとき
11:30 御満座（おまんざ）
12:30 御親教演
12:45 複演
午後1:20 千秋楽
2:00 千秋楽祝宴
2:30 御門主様御発

前回の六百五十回忌

この前の御遠忌はどのように勤まったのでしょうか。当寺の御遠忌は明治三十九年（一九〇六）六月、七日間にわたって勤められました。当時小学校二年、七歳だった現住職の記憶をもとに、その模様を再現してみましよう。交通事情から御本山の御下向はなく、参勤法中は全員宿泊でした。報謝講、称名講組御法中のほか教区寺院数カ寺、村内真宗寺院、親戚寺院、役僧が参勤、位座奉行は本光寺、広海寺御住職が務められ数名の楽人の奏楽も加わりにぎにぎしく勤まりました。法要中、天童（稚児）として籠の武石長兵衛方の榎五郎殿、村山の橋又左衛門方の左武郎殿の二少年が出仕しました。庭儀式お宿は近山五左衛門殿で、この日天気晴朗、宿から長八殿を過ぎて寺まで練り歩き入堂しました。連日満堂の参詣人にあふれ薬師寺前に芸人の舞台が三軒、富田邸の門前まで出店がたち並びました。御遠忌に当たっての本堂お荘厳の修理は御宮殿、祖師前御厨子の塗箔（内野町医師小松仁一郎殿寄進）をはじめ打敷五枚の新調（近山五左衛門、武石伊左衛門、広沢茂左衛門殿寄進）、三部妙典・和讃の表装などがあり、また記念事業として当寺大門入口から道路沿いに田中玄仙方前まで、屋根つきの黒屏垣が造築され門前をかざりました。

当寺書院竣工成る

御遠忌記念事業として五十四年度から計画を進めてきた書院新築工事は、皆様の御協力のおかげをもちまして昨年五月着工、七月上棟式、十月立派に竣工いたしました。設計は東京の幸和建築事務所(代表柏原恵行氏)に施工は吉田町の青木住宅産業株式会社(代表堀内拓氏、棟梁阿部孝二氏)にお願いたしました。本堂後門と庫裡を結ぶ渡り廊下もかねた堂宇として面目を一新するに至りました。書院内部は十五畳と八畳の和室のほか、三方の廊下洗面所、手洗い、納戸となっております。調度品も別記のとおり御寄進があり追々追々整いつつあります。木の香も新しい書院に御門



主様をはじめ御本山御一行をお迎えできますことは本当によろこばしい次第です。

お荘殿の整備すすむ

昨年発注の中尊(御本尊)宮殿脇間および祖師前御厨子補修(工費四九万五千元)、内陣壁面金紙貼り表装(工費一〇万二千五百元)中尊須弥壇新調(工費二一五万円)は三月の彼岸会までに完工、納入されました。また中尊宮殿塗箔工事(工費一八〇万円)は六月の報謝講までに完工の予定となっております。まだ発注しておりませんが、御遠忌までに整備したいものとして次のものがあります。

写真は上から新装成った書院の外観、十五畳の和室、八畳の和室内部

中尊上卓塗箔(五万五千元)、中尊前卓塗箔(六五万円)、余間高卓一对(二八万円)、菊灯三対(二〇万一千円)、畳新調・補修工事(三五万一千三百円)、御門主様御使用の和讃卓・砂張台補修、その他香炉台、仏飯器台、御華束・段盛り等修理塗箔など。

▽御寄進ありがとうございました△

- 中尊前輪灯(二六万円) 武石 きよ 殿
- 本堂欄間 篤 志 者 殿
- 祖師前御厨子塗箔(七五万円) 小林 昭・小林 忠 殿
- 祖師前前卓塗箔(三一万五千元) 小林 昭・小林 忠・伊藤久美子 殿
- 小礼盤一式修理塗箔(六五万円) 渡辺伊智 殿
- 御代前前卓修理塗箔(二六万五千元) 久保田 諭 殿
- 御伝文(二〇万六千元) 本間 只雄 殿
- 大鑿立台(一九万五千元) 松宮 信一 殿
- 中尊前卓塗箔懇志(二〇万円) 狩野彰三郎 殿
- 書院懇志(二〇万円) 加藤 与正 殿
- 書院懇志(一〇〇万円) 柏原 恵行 殿
- 書院懇志(二〇万円) 柏原 恵教 殿
- 書院調度懇志(一〇万円) 山岸 勉 殿
- △床の間香炉台高卓を購入いたしました。▽
- 本堂荘殿懇志(三一五万円) 篤 志 者 殿
- 本堂荘殿懇志(一〇万円) 山本 節子 殿

発行所 広福寺 〒959-003

新潟県西蒲原郡弥彦村大字麓6590

電話0256694-2437

印刷 ワノウ印刷